

TOKAI ASAHI

豊橋通信

農業が盛んな愛知県豊橋市には、主に若手農家の19人で作る「豊橋百農人」というグループがある。

各地のイベント会場で自分たちが育てた農作物を販売するなどして、豊橋の農業をPRする。

百農人 集ってインパクト



レモンの花の咲き具合を確認する河合浩樹さん＝愛知県豊橋市中原町

こだわる若手農家たち

「農」ではなく「農」にしたのは、「多くの『人』の支えがなければ『農』業は成り立たない」という思いを込めたからだ。得意とする産品を頭につけ、メンバーを「苺農人」「茶農人」などと呼んでいる。

2009年6月、「檸檬農人」の河合浩樹さん(55)が中心になって設立した。「豊橋は全国有数の農業王国でありながら、知名度があまり高くない残念。1人ではインパクトが小さい。農業で面白いことをやっている人たちが集ま

って、発信したかった」
 昨年秋には紅茶やレモン、ネギなどと生ビールをブレンドした5種類のカクテル「百農人ビール」を作り、豊橋駅前販売。農産物の意外な使い方方を来訪者に味わってもらった。

19人には無農薬栽培や化学肥料を使わない、完熟の農産物を作るなど、それぞれにこだわりがある。

河合さんのこだわりは「売った後の調理方法も提案し、いかにおいしく食べてもらうか」だ。連日、妻とともに台所に立ち、レモンを使った調理方法の研究を欠かさない。「試行錯誤の繰り返し。苦労してブログで紹介すると、すぐに問い合わせがあったり、まねされたりと反応が大きい」

月に1回、メンバーが集まって定例会を開き、取引先や販路の情報交換やイベント開催の打ち合わせをする。今月8日、市内のホテルで集まった時は、9月末に予定している「百農人まつり」について話し合った。年に1回開催され、農畜産物や加工品を目当てに約4千人が集まる人気イベントだ。

「豊橋や東三河は多くの種類の農畜産物が作られているのが特徴。他の地域との差別化をいっそう徹底し、広くPRしていきたい」

(連勝一郎)